



## 建設業組合員らが砂丘清掃

御前崎市建設業組合18社が6月29日、県や市と協力し、ボランティアで浜岡砂丘を清掃しました。この活動は昨年度から実施しており、観光客が訪れる夏季を前に景観を整えようと同組合長の西島正浩さんの呼び掛けにより実施されました。

西島さんは、「今後も御前崎の海をきれいにする手助けをしていきたい」と抱負を語りました。

◀ボランティアで清掃活動に取り組む市建設業組合員ら



## 新庁舎を津波の避難施設に

市が県御前崎港管理事務所の新庁舎を「津波避難ビル」に指定したことで7月5日、地域住民が緊急時に避難施設として利活用できるようになりました。同事務所には、72時間稼働する自家発電機や屋上に上がることができる外部階段などが設置されています。玉木睦所長は、「津波の避難には事前の備えが必要。防災港としての役割を果たすことができる」と話しました。

◀新庁舎を津波避難施設とする協定を交わす柳澤市長と玉木睦所長



## 被災した地域の復興を祈る

御前崎市消防団長の山下芳則さんは7月8日、熱海市消防団長のもとを訪れて災害見舞義援金の贈呈や現地の視察をしました。山下団長は、「想像を絶する光景だった。声も出ないとはまさにこのこと。御前崎でも同じようなことが起きる可能性がないとは言えないため、さまざまな事態を想定した予防消防が必要だと再認識した」と危機意識を高めました。

◀熱海市伊豆山で発生した土砂災害を視察する山下芳則団長



## マダイの稚魚の放流を体験

佐倉地区の県温水利用研究センターで養殖したマダイの稚魚の放流体験が7月9日、御前崎港マリナで実施されました。

放流したのは浜岡東小学校の4年生54人。児童は同センターが体長5センチ程にまで育てた稚魚500匹を海に放流し、大海原を目指して泳ぎ始めた稚魚に対して「大きく育ててね」と呼び掛けました。

◀マダイの稚魚を放流する児童